

当たり前ですが、新聞は広げて読めるという特徴を持っています。また、横に並べられるということは、比較しやすいことを意味します。テレビやインターネットでは、そうはいきません。ニュースを比べるためには、2台のテレビを並べて置かないと無理です。新聞を「比べて読む」ことは、NIEの中では、「続けて読む」「先を読む」と並んで大事なことです。

比べるというと、新聞同士の違いを見つけることに重きが置かれがちですが、新聞社が違ったり、作り手が異なったりすれば、新聞の中身も異なることは当然です。そこで、比べることの最初は、「同じ」を探させることを勧めます。同じ出来事を扱った記事を比べて、同じことが書かれた箇所を蛍光ペンで塗れば、その箇所は正しいと判断できます。

体裁や紙面構成などで共通点を見つけることにより、「新聞」そのものの特徴を知ることができます。例えば、日本全国の新聞の名称・題字をチェックすると、ほとんどの新聞名に「新聞」「新報」「日報」「日日」「毎日」の文字が付けられています。初期のころから日刊で発行されていたことも分かります。また、通算4万号を超えるものが半数以上で、明治10年代、20年代には多くの新聞が刊行され、現在まで続いているものが20紙以上あることも分かります。なぜ、日刊で発行されたのか、早くに発行されたのはどんな地域だったのか、当時の時代背景と重ね合わせてみると、歴史の生きた学習ができるでしょう。

旅行などで地方へ行ったら、地元の新聞と自分が購読している全国紙の両方の購入を勧めます。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)